

令和元年度 県外視察研修報告

岡谷市立岡谷西部中学校 太目 毅

研修のテーマ

ICTを活用した授業づくり ~ 学力向上に向けて ~

1. 視察期日 令和2年1月30日
2. 視察場所 私立 立命館宇治中学校(京都市)
3. 研修場所

(1) 研修の概要

ICTを活用したアクティブラーニングの実践を視察し、ICTを活用して学力向上に向けた授業づくりに努めていく。

(2) 研修から感じたこと

社会科の中学3年公民「平等権と差別」の授業では、電子黒板機能付プロジェクタ、テックキャンバス、PowerPointを使い、日本国憲法において保障されている平等権について、身近な事例から問いをもち、平等権と差別について考えた。各自がノートパソコンを操作してプレゼンし、発表を聞いた生徒たちはパソコン上で新たな問いやプレゼンの評価(構成は論理的で批判的思考はできていたかなど)を打ち込み、教師が全体でシェアしていった。

~調べてまとめること~

現状【基本知識・問題の背景・事例判例の概要】
 憲法のどの条文に関係しているか
 裁判の争点判決結果
 問いに対する自分の意見
 異なる立場の意見や反対意見
 まとめ・新たに生まれた疑問・問い

ニュースでも話題になった「土俵問題」を取り上げた生徒は、女性が土俵の上上がったことでクローズアップされた男女差別に関わる問題について「日本の伝統」がひっかかっていることに気づき、「今後、何を守って何を変えていくかが大切」と発表する姿があった。

授業を振り返ってICTでプレゼンを行ったり、考えを全体でシェアしたりする方法は有効だと感じた。また、プレゼンの評価もアンケートをダウンロードして行うため、短時間で反映される良さがある。教師側の労力も省力化でき、活動時間も生み出せると感じた。

このようにICTを発表に使うだけではなく、評価の方法としても活用できることを知り、益々今後、有用性が高まると感じた。

< ICT活用の主なメリット(社会科) >

- ・全員の意見を瞬時に集約でき、共有できる。
- ・インターネットを利用した情報収集がその場でできる。
- ・情報をを用い、自分の考えをまとめることができ、他者の意見を聞くことで自分の考えを深めることができる。

分科会 「立命館宇治 ICTの現状」
 「ICT活用授業の情報交換」
 「教科教育におけるプログラミング的思考法の育成」
 「教育の情報化」
 「(株)MetaMoJi ClassRoom 体験ワークショップ」

「情報モラル講演会」

グリー(株)小木曾健氏「正しく怖がるインターネット~事例に学ぶ情報モラル~」

SNSのトラブルに関わる事例を中心にネットの怖さについての講演であった。

「日常生活でやらないことはネットでやらない。インターネットはすべて玄関の外側。ネットに挙げるのは、知り得た情報を玄関の外側に貼り紙をするようなもの。今のふるまいが5年後、10年後の自分を苦しめる。日常生活とネットはつながりっぱなし。境目はないということ認識する必要がある。ネットは道具。道具は失敗しない使い方がある。」など。

「MetaMoJi ClassRoom 体験ワークショップ」

ICTを使った授業、グループ学習の進め方の演習

アプリを使って、生徒側が書き込むと教師側で何を書き込んだか一度に把握できる。

また、グループ学習においての活用法では、ICTを学習カード代わりにしてグループのメンバーが、どんどん考えを書き込んでいく演習。タブレットを操作し、タイムラグなしに作業ができるというメリットがとれた。

他にも、英語の授業が習熟度別に行われていたり、数学の授業を英語で進めていたりするなど特色が見られた。

(3) 研修を通して 私のこれからの課題

ICTを効果的に活用するためには、教師が教科・単元のねらいをしっかりと理解し、見通しをもった単元展開のなかで有効に活用していく必要があると思う。ICTの活用方法は多様であり、教科によって様々な使い方がある。その都度吟味しながらどのような学習場面でどんな効果があるか考えていきたい。